



令和7年12月5日
道路局高速道路課

スマートインターチェンジの
高速道路会社への事業許可および準備段階調査着手について
～スマートインターチェンジの新規事業化箇所を決定しました～

国土交通省は、スマートインターチェンジ4箇所について、本日付で高速道路会社へ事業許可を行いました。

あわせて、新たにスマートインターチェンジ1箇所の準備段階調査に着手することとしました。

別添①：スマートインターチェンジの検討・整備について

別添②：スマートインターチェンジの高速道路会社への事業許可

別添③：スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添④：スマートインターチェンジの新規準備段階調査着手箇所

参考：スマートインターチェンジの整備

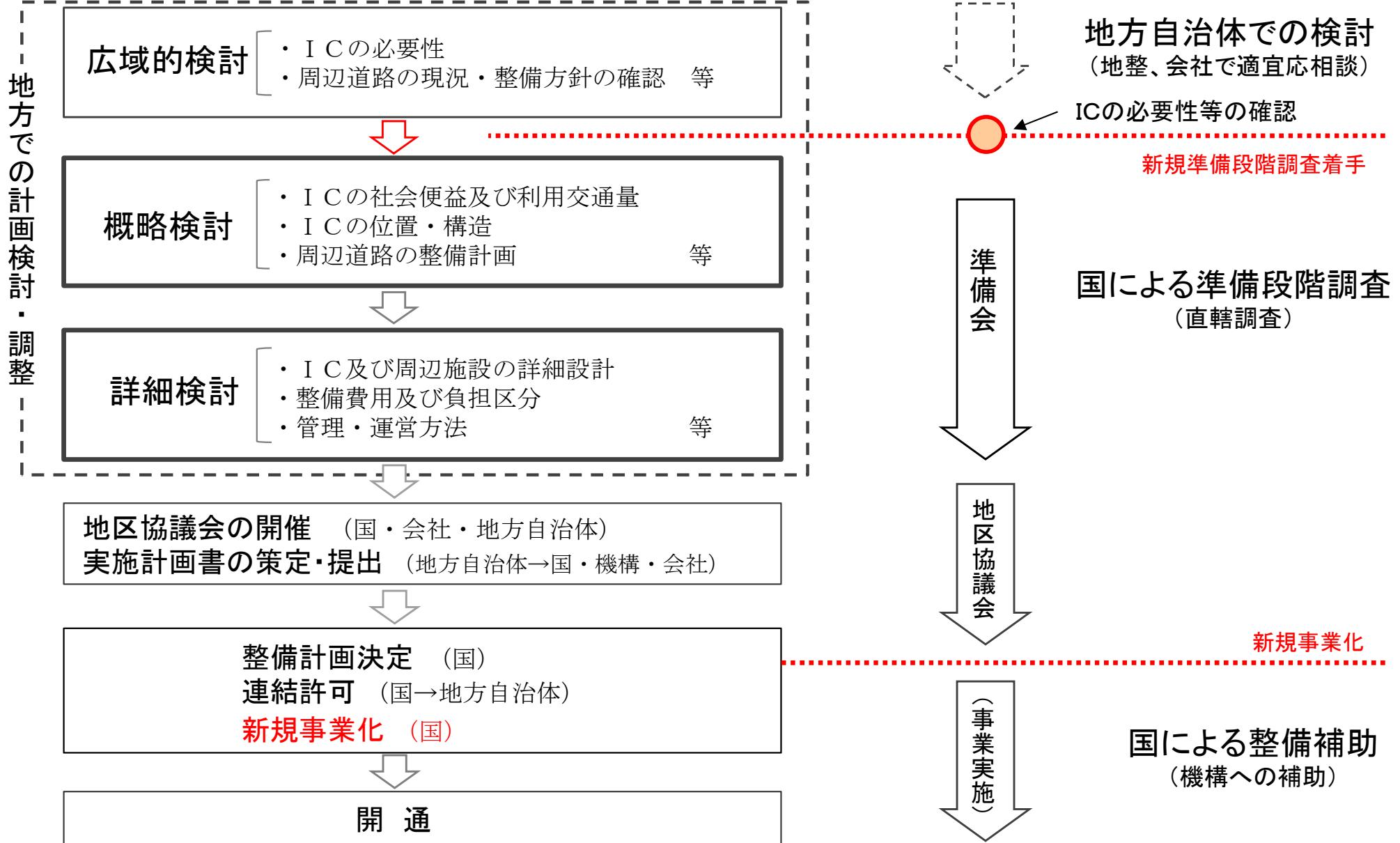
＜問い合わせ先＞

道路局 高速道路課 松村（内線38362）、梅澤（内線38353）

代表：03-5253-8111 直通：03-5253-8500



- スマートICの準備段階(地方での計画検討・調整段階)において、国として必要性が確認できる箇所等について、箇所を選定し、国が調査(直轄調査)を実施(準備段階調査)。
- 準備段階調査における準備会での検討や調整が整い、関係機関で構成される地区協議会で決定された実施計画書が提出された箇所につき新規事業化。



スマートインターチェンジの高速道路会社への事業許可

別添②

スマートインターチェンジ^{※1}の新規事業化箇所

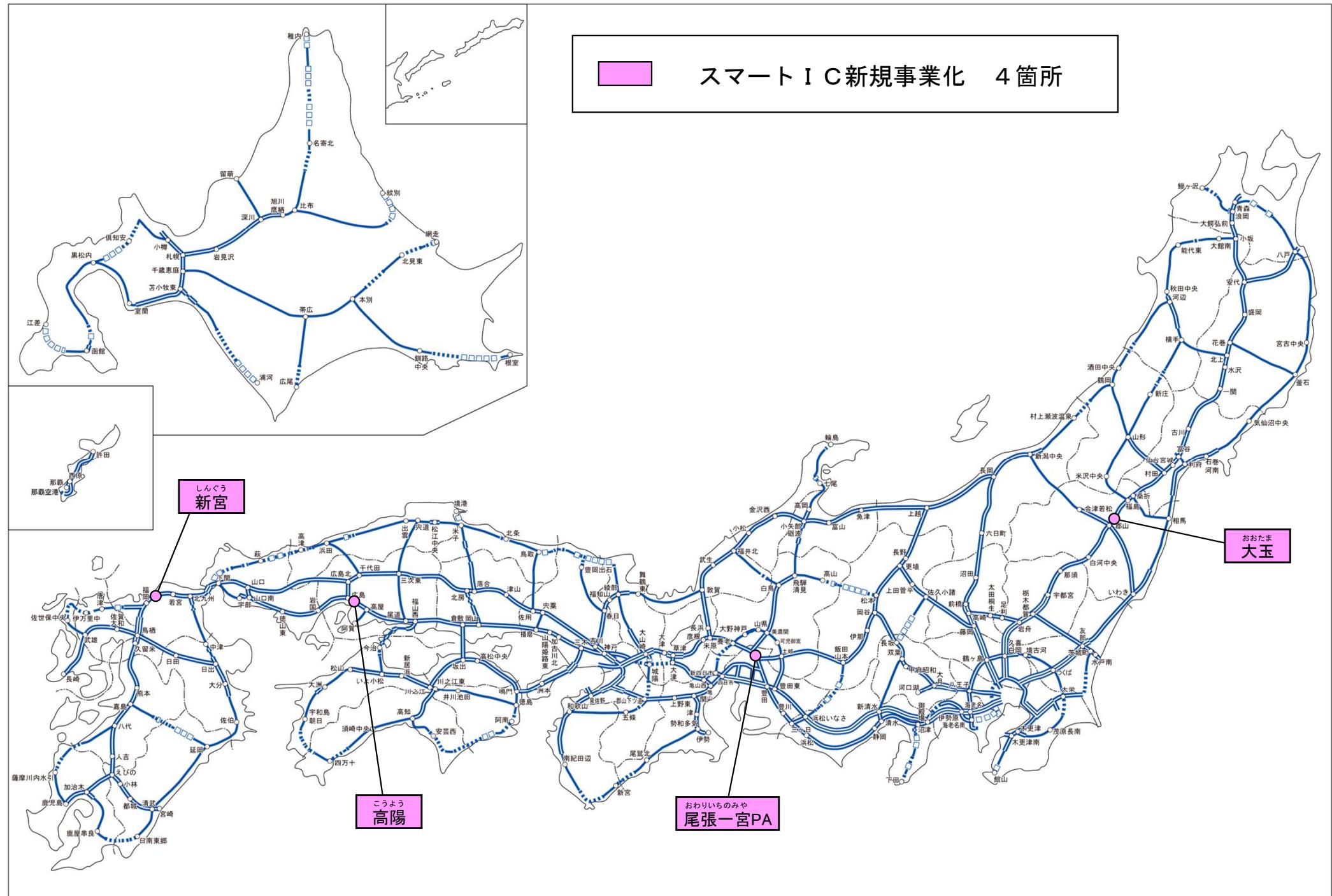
スマートインターチェンジの名称(仮称) ^{※2}	連結位置	路線名	事業主体
おおたま 大玉	あだち おおたまむら 福島県安達郡大玉村	ひろさき もとみや にほんまつ 東北縦貫自動車道弘前線(本宮IC～二本松IC間)	NEXCO東日本 大玉村
おわりいちのみや 尾張一宮PA	いちのみや いわくら 愛知県一宮市、岩倉市	にしのみや こまき いちのみや 中央自動車道西宮線(小牧IC～一宮IC間)	NEXCO中日本 一宮市、岩倉市
こうよう 高陽	ひろしま 広島県広島市	すいたやまぐち ひろしまひがし ひろしま 山陽自動車道吹田山口線(広島東IC～広島IC間)	NEXCO西日本 広島市
しんぐう 新宮	かすや しんぐうまち 福岡県糟屋郡新宮町	こが ふくおか 九州縦貫自動車道鹿児島線(古賀IC～福岡IC間)	NEXCO西日本 新宮町

※1 スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジです。

※2 スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

スマートインターチェンジ新規事業化箇所図

別添②



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

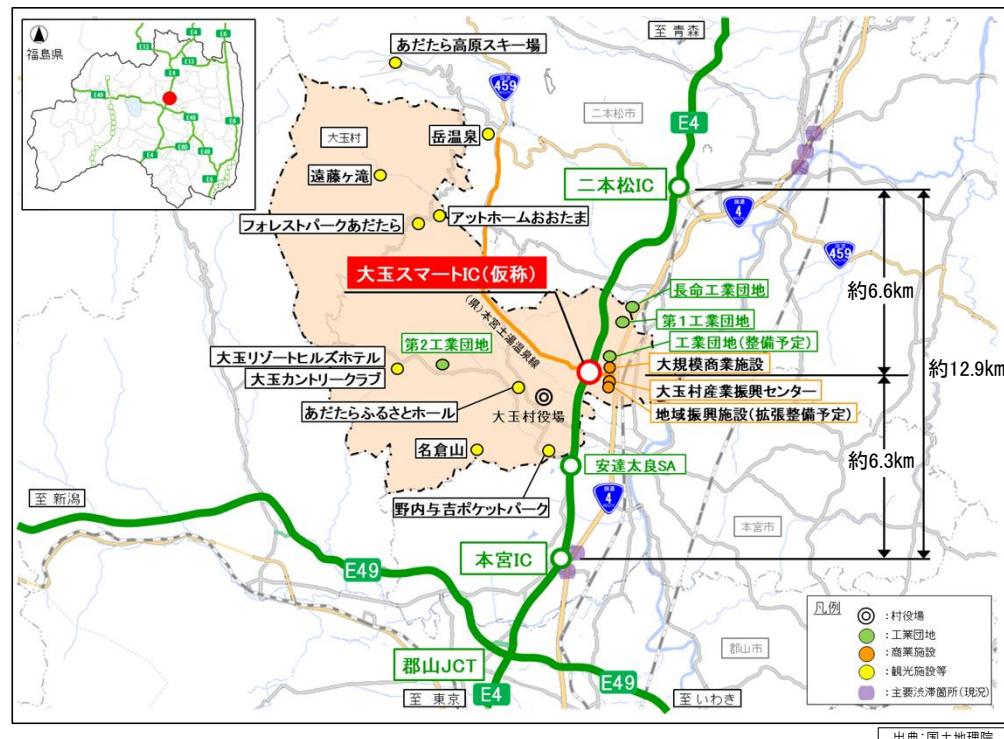
■東北自動車道 大玉スマートIC（仮称）

<概要>

路線名：東北縦貫自動車道弘前線
(本宮IC～二本松IC間)

設置場所：福島県安達郡大玉村
接続形式：本線直結型
形 式：全方向（4/4）
運用形態：全車種 24時間

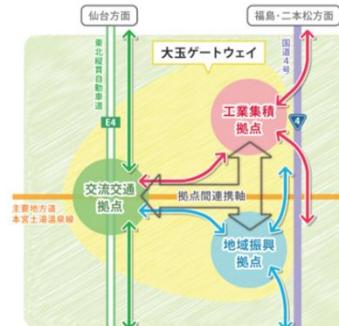
<位置図>



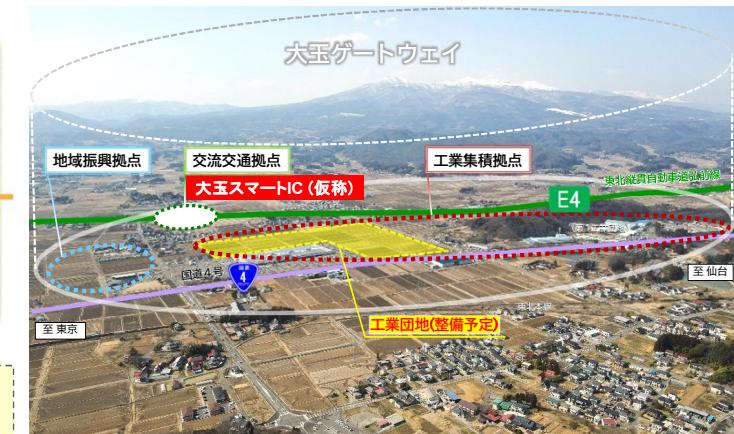
整備効果 産業振興

- ・大玉村では、働く場「大玉ゲートウェイ（工業集積拠点）」として、新たに工業団地を整備予定。
- ・スマートICの整備により、当該エリアへの交通利便性の向上が図られ、企業誘致の促進や雇用創出、物流の効率化が図られる。

■大玉ゲートウェイの概念図



■将来の実現に向けた整備構想図



出典 大玉村

整備効果 観光促進

- ・大玉村では、新たな観光拠点の形成として、大玉村産業振興センター（直売所）を地域振興施設として拡張予定。
- ・スマートICの整備により、新たな観光拠点を含む村内観光施設への来訪者数の増加やフォレストパークあだたらへのアクセス性の向上が図られ、県外からの入込客数の増加が図られる。



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■名神高速道路 尾張一宮PAスマートIC（仮称）

<概要>

路線名：中央自動車道西宮線
 (こまき いちのみや
 小牧IC～一宮IC間)

設置場所：愛知県一宮市・岩倉市
 (いちのみや いわくら)

接続形式：SA・PA接続型

形 式：全方向 (4/4)

運用形態：全車種 24時間

<位置図>



整備効果 アクセス向上による産業活動の支援

- スマートIC整備により、周辺企業から渋滞箇所を回避して高速道路へアクセスが可能となり、所要時間が短縮することから、物流効率化や生産性向上が期待される。
- 高速道路へのアクセス性が向上することにより、スマートIC周辺への更なる企業立地が促進し、地域経済の活性化が期待される。



※所要時間:ETC2.0プローブデータ (2024[R6]年10月平日)

整備効果 周辺道路における渋滞緩和

- スマートIC整備により、高速道路へ向かう交通がスマートICへ分散し、一宮ICや小牧IC周辺では、高速道路への経路上における渋滞緩和が期待される。



※日交通量:将来交通量推計結果

スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■山陽自動車道 高陽スマートIC(仮称)

<概要>

路線名：山陽自動車道吹田山口線
(広島東IC～広島IC間)

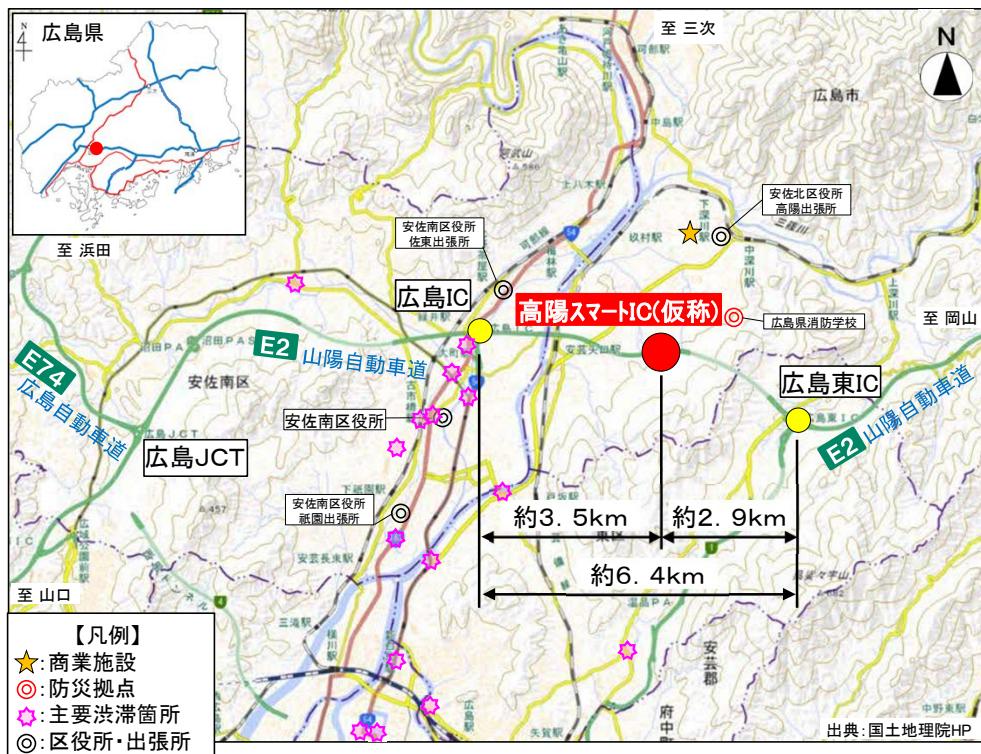
設置場所：広島県広島市

接続形式：本線直結型

形 式：全方向 (4/4)

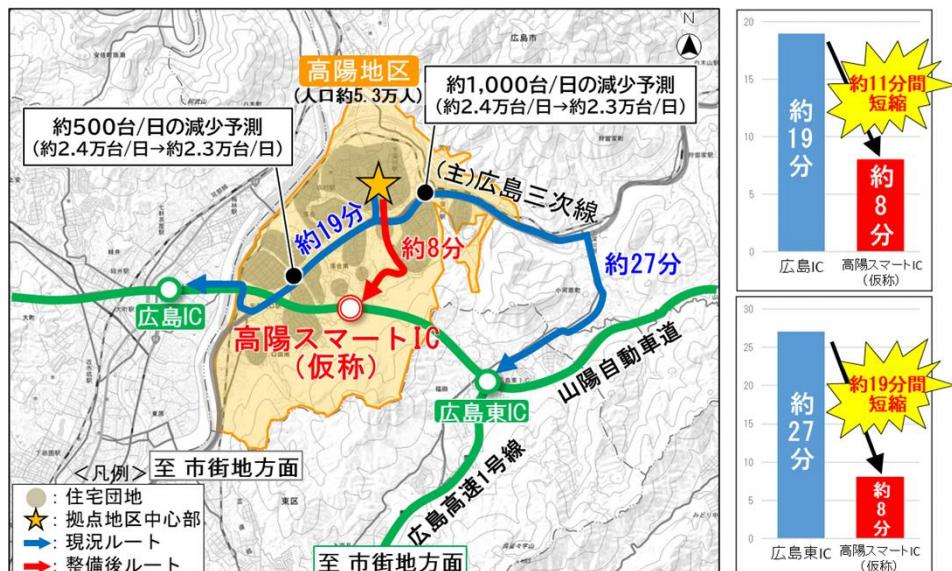
運用形態：全車種 24時間

<位置図>



整備効果 利便性向上・渋滞緩和・地域コミュニティの活性化

- 高陽地区の中心部から最寄りの高速道路のICまでのアクセス時間が約19分から約8分に短縮され、地域住民の利便性が大きく向上する。
- 主要な幹線道路である(主)広島三次線の市街地方面と行き来する交通がスマートICを経由した山陽自動車道に転換し、朝夕のラッシュ時等の渋滞緩和が期待される。
- 高陽地区は、分譲開始から40年を経過した団地が多く、高齢化の進行等の地域課題が顕在化している中、拠点性強化や定住促進、ひいては地域コミュニティの活性化が期待される。



整備効果 広域的な防災機能の向上

- 災害時に広域救援活動を行うための宿営地となる広島県消防学校と山陽自動車道との連絡が強化され、広域的な防災機能の向上が期待される。



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③

■九州自動車道 新宮スマートIC（仮称）

<概要>

路線名：九州縦貫自動車道鹿児島線
(古賀IC～福岡IC間)

設置場所：福岡県糟屋郡新宮町

接続形式：本線直結型

形 式：全方向（4/4）

運用形態：全車種 24時間

<位置図>



出典：国土地理院

整備効果 東部地域の地域振興支援

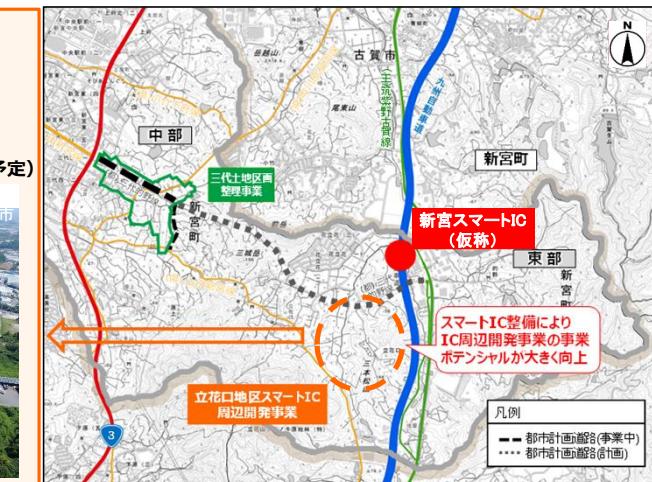
- ・新宮町は、西部・中部に人口が集中・増加する一方、東部では都市基盤整備の遅れから土地利用が進まず人口が減少している。
- ・町東部地域の振興につながるまちづくり実現を目指し、立花口地区スマートインターチェンジ周辺開発事業が進行している。
- ・開発事業計画地周辺に新宮スマートIC（仮称）を整備することで、本計画の事業ポテンシャルを高め、新宮町東部地域の地域振興を後押しする。

【新宮町の重要な都市づくりの取組】

「新宮町都市計画マスタープラン」
＜立花口地区スマートIC周辺開発事業＞

- 民間開発による大型物流・工業団地整備計画
- 用地買収着手済
- 誘致企業の稼働（新宮スマートIC供用に合わせて稼働予定）

■ 計画予定区域周辺



整備効果 企業誘致の促進

- ・国道3号沿線の「三代土地区画整理事業」の開発が進み、物流企业や食品工場等を誘致する。
- ・しかし、三代土地区画整理事業区域と最寄りの古賀ICまでの区間に主要渋滞箇所が3箇所あり、アクセス性の低下が課題である。
- ・新宮スマートIC（仮称）の整備により渋滞箇所を回避した高速道路へのアクセスが可能となり、企業誘致の強力な推進が図られる。

■ 事業区域周辺

【新宮町の重要な都市づくりの取組】
「新宮町都市計画マスタープラン」

＜三代土地区画整理事業＞

物流生産地区：
流通業務施設、
食品工場等の
立地誘導を図り、
雇用促進を支援。



スマートインターチェンジ^{※1}の新規準備段階調査着手箇所

別添④

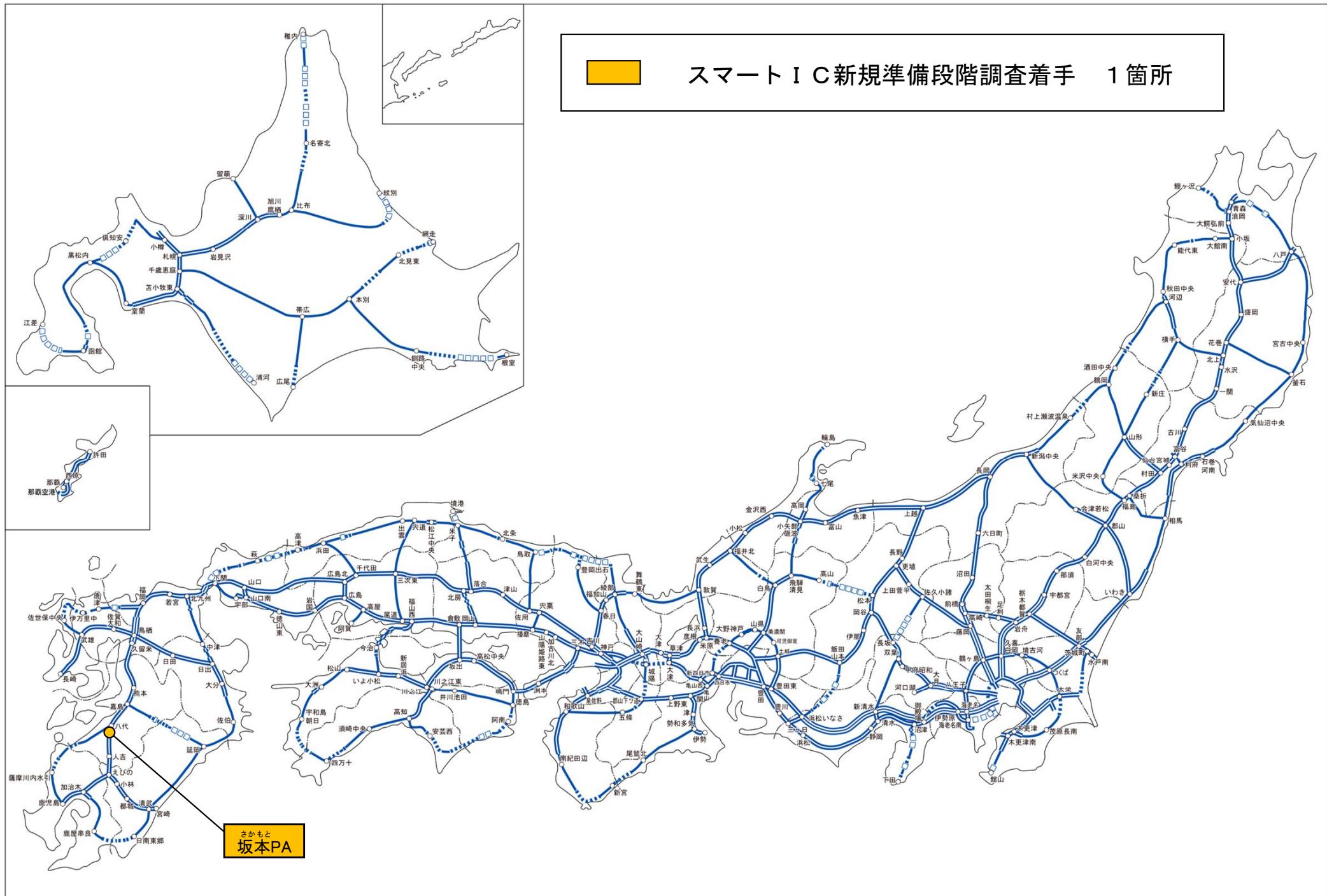
スマートインターチェンジの名称(仮称) ^{※2}	検討位置	路線名
坂本PA さかもと パーキングエリア	熊本県八代市 やつしろ	九州縦貫自動車道鹿児島線(八代IC～人吉IC間) やつしろ ひとよし

※1 スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジです。

※2 スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

スマートインターチェンジの新規準備段階調査着手箇所図

別添④



＜スマートインターチェンジとは＞

- スマートインターチェンジは、通行可能な車両をETCを搭載した車両に限定しているインターチェンジ

[SA・PA接続型]

→サービスエリアまたはパーキングエリアに接続

[本線直結型]

→高速道路本線に接続

- ETC専用のため、料金徴収施設を集約する必要がなく、コンパクトな整備が可能

- 料金徴収にかかる人件費も節約可能

我が国の高速道路のIC間隔は平均約10kmで、欧米諸国の中でも平地部における無料の高速道路の2倍程度



平地部でIC間隔を欧米並みの約5kmとなるよう整備を推進

開通	163箇所
事業中	53箇所
準備段階調査	2箇所
(令和7年12月5日時点)	

＜負担区分＞

